

ふじた

FUJITA

ご自由にお持ちください

No. 77

新病院長就任

特集 足の血管センター

足の血管センターのご紹介

足の血管センター先生のご紹介

FUJITA News

Information

新病院長就任

2025年4月1日より白木良一前病院長の後任として藤田医科大学病院 病院長を拝命いたしました今泉和良と申します。専門分野は呼吸器内科です。藤田医科大学病院は国内最多の病床数1,376床を有し、特定機能病院として高度医療を提供すると同時に、地域医療の基幹病院、医学教育機関として地域の皆様が安心して医療を受けていただくための救急医療、病診連携機能の充実、良き医療人の輩出を大きな使命としております。当院は高度救命救急センター、基幹災害拠点病院に指定されておりますが、その体制を一層強化するために、ドクターヘリの運航も開始しました。また、国内屈指のがん治療拠点として、ロボット支援手術、がんゲノム医療、個別化医療など国内をリードする最新医療を引き続き提供してまいります。私たちがこれまで培ってきた「やさしさの医療」と、安全で質の高い先進的医療をさらに進めるために職員一丸となり、懸命に努めてまいります。



病院長
今泉 和良

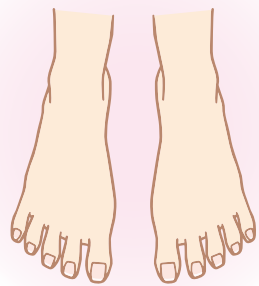
特集

足の血管センター
足の血管の病気について
話ませんか？



足の血管センターのご紹介

大切な足のために



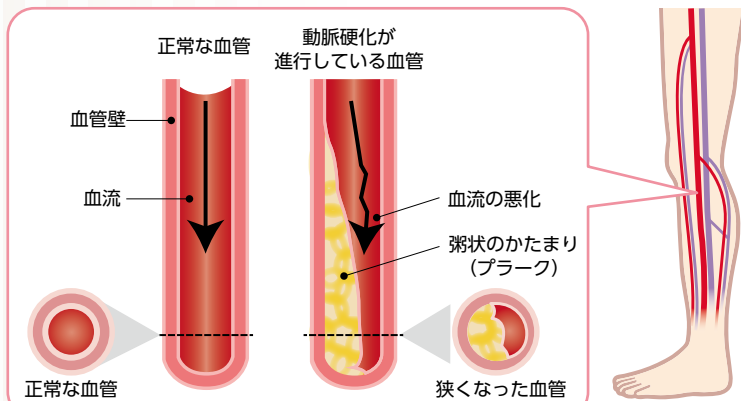
高齢化社会を迎え、食生活の変化とともに高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病は増えています。また透析患者も年々増加しており、動脈硬化による血管病を患う患者は増加しています。心筋梗塞や脳梗塞がその代表的な疾患ですが、足も例外ではありません。足の重度の動脈硬化（重症虚血）を放っておくと、下肢切断となり、また生命予後も非常に悪くなります。胃や大腸などの消化器の進行がんよりも短命にな

るともいわれており、動脈硬化は血管の「がん」といっても過言ではありません。様々な背景をベースとして足の血流は悪くなるため、当然治療も複雑になります。具体的には、生活習慣病の内科的なコントロールはもちろんのこと、足の傷の管理、カテーテル治療や外科的バイパス術、必要に応じた植皮（しよくひ）や足趾（そくし）切断など、色々な治療の必要性を考えなければなりません。これは一つの診療科では達成できません。患者さん一人ひとりの治療の方向性は異なるため、各診療科の意見を統一するために、足の血管センターを創設しました。これにより、複数診療科が連携して集学的治療を行い、下肢の温存のみならず、QOL（生活の質）や生命予後の向上を目指しています。元気な足を取り戻しましょう。



そもそも動脈硬化とは？

加齢や高血圧等によって動脈が硬くなって弾力性が失われた状態を指します。喫煙・脂質異常症・飲酒・糖尿病などの危険因子によって、血管壁に粥状（じゅくじょう）のかたまり（プラーク）がついて血管内が狭くなることにより、血栓が生じたりして血管が詰まりやすくなることをいいます。

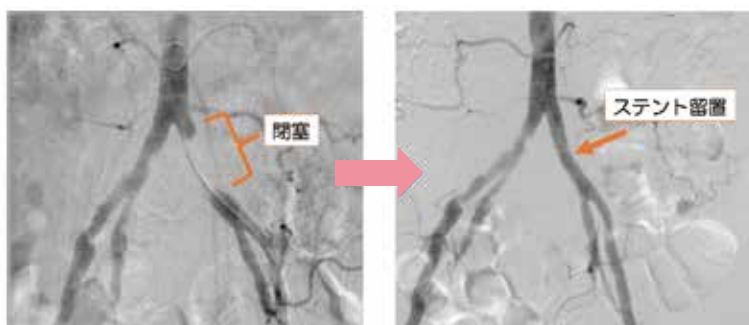


診断

足の血管センターを受診されるほとんどの患者さんは、動脈硬化に伴う血流不良の方です。まずはこれらの患者さんを診断することが非常に重要です。血流不良は身体診察でも分かりますが、ABI(足関節上腕血圧比)検査やSPP(皮膚灌流圧)検査など特殊な検査をするより詳細に診断ができます。CT検査や下肢血管造影検査を行うと、診断精度はさらに上がり、手術方針まで決めることができます。当院では、これらの検査を行うことが可能です。

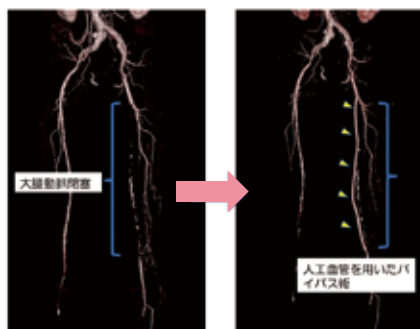
血管内治療

手術が必要になった場合、まずは身体に負担の少ない治療を選択します。血管内治療(カテーテル治療)は、動脈硬化によって狭窄もしくは閉塞した血管を広げる治療です。局所麻酔で施行可能であり、2泊3日程度で退院することも可能です。カテーテル治療で使用されるデバイス(ステントやバルーン)は、以前よりも治療成績が向上しており、当院も最新のデバイスに注目しながら、患者さん一人ひとりに応じた選択をしています。



血行再建

足が壊死して感染を伴っている場合や血管の病変の状態によっては、血管内治療ができない場合があります。その場合は外科的な血行再建術(バイパス術)を行います。原則的に全身麻酔が必要であり、人工血管や自己の血管(静脈)を用いて、病変部を迂回したバイパス術を行います。身体に侵襲はありませんが、カテーテル治療よりも血流改善効果は非常に高いです。バイパス術は高度な技術が必要ですが、当院では多数のバイパス術を行っています。



創傷管理

内科的管理や手術をするだけでは、治療は完結しません。通常、足に傷を持っている患者さんが多く、足の一部が壊死していることもあります。術後はこれらの創傷管理が重要になります。一度壊死した組織は手術をしても回復しないため、壊死した足趾を切断するケースもあります。洗浄や軟膏処置が基本となりますが、傷の状態によっては、専用の機器を足に装着して創傷の治癒を促進させたり(局所陰圧閉鎖療法)、植皮を行うこともあります。



下肢切断・リハビリ

残念ながら、全ての足を救うことができません。広範に壊死していたり、感染が重篤な場合は、最初から下肢切断を行うこともあります。また血管内治療や外科的血行再建を行っても、血流が改善せず、最終的に下肢切断になることもあります。しかし足を切断した場合でも、義足等で歩行機能を補い、リハビリを行って可能な限り社会復帰できるようにプログラムを組んでいます。足の疾患は、常にリハビリの必要性を考えなければなりません。

予防

足の血流が悪くなると、活動範囲は狭くなり、寿命が短くなります。当センターでは多くの患者さんを診ていますが、足の状態が健康であることに越したことはありません。生活習慣病がベースにあるため、予防することは可能です。高血圧・糖尿病・脂質異常症は、食生活や運動が大事ですが、必要があれば内科で内服薬による治療を積極的に行ってください。また禁煙も非常に大事です。当センターに来院される患者さんが減ることを期待しています。

足の血管センター 先生のご紹介

★プロフィール

東京生まれ、群馬県育ちです。名古屋で血管外科を学んだ後、2007年に渡米しました。現在は米国の大学で血管外科の診療・手術を行っています。2023年7月からは藤田医科大学病院での診療を兼任しています。



副センター長
血管外科
山之内 大 教授

★患者さんへ

足の血管の病気を罹患している患者さんは日本で400万人近くいるといわれています。糖尿病、透析、心臓の病気などを合併していることが多いため、包括的に病気にアプローチする必要があります。足の血管センターでは個々の患者さんにベストな治療を提供できるよう多くの診療科の先生方と連携して治療を行っています。

★プロフィール

豊橋の出身です。足の血流を良くするためには歩くことが大切です。患者さんに歩くことを勧めている身として、私も毎朝、地下1階から5階まで階段を上るようにしています。時々エレベーターに乗りたくりますが、頑張っ続けようと思います。



センター長
循環器内科
井澤 英夫 教授

★患者さんへ

当センターでは足の動脈や静脈の血流が悪くなることで起きる病気を専門的に治療します。当センターでは足の血流が悪くなることで起こるトラブルに精通したいくつもの診療科の医師や看護師、理学療法士、管理栄養士などのスタッフが協力して足の治療やケア、再発予防のための生活アドバイスを行います。

★プロフィール

生まれは愛媛県で、大学以降は主に関東で血管外科医として研鑽を積みました。2023年夏の血管外科開設と同時に愛知県にやってきました。血管疾患全般を治療していますが、下肢動脈疾患の治療を最も得意としています。



血管外科
松浦 壮平 講師

★患者さんへ

足の血流障害は長距離歩行の困難や足の感染・壊死を引き起こし、足を失くしたり生命をおびやかす原因となります。段差の多い日本で足を失うことは生活に大きな支障をきたすだけでなく、寿命を短くするともいわれています。血管外科では、歩行距離を改善したり足を温存するために必要な血流改善のための治療（バイパス手術・カテーテル治療等）を担当しており、国内でも多くの患者さんの治療をさせていただいています。

★プロフィール

茨城生まれです。東京医科大学を卒業し、血管外科に魅了され専門にしました。主に関東圏で血管外科の診療と研究に携わってきましたが、2023年7月に藤田医科大学に血管外科が新設されるタイミングで、愛知県に来ました。



血管外科
根本 卓 准教授

★患者さんへ

心筋梗塞や脳梗塞など、重要臓器の虚血は注目されておりますが、足の虚血は軽視されがちです。足が壊死すると下肢大切断となり歩行は困難になるどころか、生命予後も極めて不良になります。我々血管外科医は、手術によって下肢の切断を回避すると同時に、QOL・生命予後を改善させることに注力しています。

藤田院内ラジオ Fujita Hospital Radio

フジタイム
FUJI TIME

足の血管センター副センター長 山之内 大 教授が出演！
院内ラジオ「フジタイム」第 121 回で配信中！

足の血管の病気を患う人は国内に400万人と多く、進行してしまつと命の危機や足の切断のリスクがある非常に危険な病気です。早期発見の重要性について山之内副センター長よりお話していただきました。



こちらから
または、院内ラジオ
フジタイムで検索！
チャンネル登録も！

足の血管センター 先生のご紹介

★プロフィール

岐阜県生まれ静岡県掛川市育ち。藤田学園に関わり続けて42年。手術が好きで整形外科医となり、現在は主に人工膝関節置換術を担当しています。患者さんの膝の痛みを和らげるため、日々全力で治療に取り組んでいます。



整形外科
早川 和恵 教授

★患者さんへ

整形外科が糖尿病や血行障害による足傷害の患者さんを担当するのは、病状が悪化した場合になります。治療は、生命の危険を回避するために下肢の一部を失うことになります。そのため患者さん本人やご家族のご意向に沿って行っています。術後は日常生活をよりよく過ごせるよう他科や他院との連携を図っています。

★プロフィール

2022年春から藤田医科大学で勤務しております。愛知県生まれですが、親が転勤族だったため、本格的に愛知県で生活するのは今回が初めてです。専門は顎変形症に対する骨切り術、組織欠損に対する再建術です。



形成外科
西岡 宏 講師

★患者さんへ

形成外科では主に傷の治療を担当しています。様々な軟膏や処置で傷をきれいにします。その後、患者さんの状態や傷の部位に応じて、手術なども併用して傷を閉じます。痛みや不安がないように配慮していきますので、小さな悩みでもお気軽にご相談ください。

★プロフィール

愛知県出身です。大学卒業後は内科医として他の病院で働いておりました。2019年より皮膚科で勤務しています。皮膚科のスタッフや他の科の先生方と共に診療を担当しています。



皮膚科
鈴木 究 助教

★患者さんへ

糖尿病や血流障害による身体の変化は気づきにくい事もありますが、目で見てわかる皮膚の変化には、重い病状を回避出来るヒントがあるかもしれません。そのお手伝いが出来れば幸いです。普段の皮膚ケアや傷の処置など、症状に応じた治療と一緒に考えてまいります。

★プロフィール

出身は東京で大学進学をきっかけにその後は愛知に暮らしています。5年前に当院へ赴任をしてからは、循環器内科医またカテーテル治療医として下肢動脈疾患を専門に担当しています。



循環器内科
松脇 佑次 助教

★患者さんへ

包括的高度慢性下肢虚血は予後が悪い疾患です。併存疾患も多く、特に心臓病を多く合併しています。循環器内科としてカテーテル治療に加え、内科的な全身管理も行っていきます。また、この疾患は予防も大事になってきます。その活動にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

受診するにあたって

受診を希望される方へ

当センターの受診を希望される方は、かかりつけの先生へご相談ください。

当院へ患者さんを紹介くださる医療機関の方へ

血管外科もしくは循環器内科の足外来へご紹介ください。インターネット・FAXでの予約も可能です。

患者さん向け



医療機関向け



詳細な受診方法は上記二次元コードよりご覧ください。

第12回



お昼ご飯は、お弁当です。今は子どもたちも社会人になり、作るのは自分一人分だけなので、簡単に作れて野菜もたくさん取れる、サラダうどんやパスタ、麺類が多いです。

山口さんのお昼ごはん！



看護部 診療補助
山口 晶子さん
からの紹介で、
放射線部 放射線技師
福場 崇さん
です。

+ FUJITA News 1

STAFF 紹介 ALL FUJITA

看護部
診療補助
山口 晶子 さん
(勤続 16年)



脳神経外科・脳卒中科病棟で、診療補助業務を担っています。内容は環境整備をはじめ、食事の配膳や下膳、搬送や食事・トイレの介助、看護師とともにいう体位変換・オムツ交換等、患者さんからは「なんでも屋さん」と言われています。

私が今、夢中となっている事は、娘との「推し活」です。某アイドルが大好きで、昨年は手作りうちわを持参し、東京ドームライブに2日間、参戦してきました。推しのおかげでストレス発散して元気をもらっているのも、入院中の患者さんがストレスなく過ごせるよう、微力ながらもお手伝いできたらと心掛けています。

+ FUJITA News 3

FUJITA NEWS WEB

「見るたびに FUJITA が好きになる！」をテーマにその時々いちばんお伝えしたい情報を配信しています。ぜひご覧ください。



中日ドラゴンズ選手の
トークショー開催



東京音楽大学 × 藤田医科大学
コラボセミナー vol.12



+ FUJITA News 2

『フジタビト』

本学で研究や診療に取り組む先生を紹介していく
シリーズ動画「フジタビト」
先生のお人柄や素顔にも迫っていきます。

FILE 29 先端ゲノム医療科
須藤 保 教授



FILE 30 医学部 健康科学
若月 徹 准教授



24時間いつでも聴けます! 毎月第1・3水曜日新プログラム
YouTubeで配信中!!

院内ラジオ フジタイム

検索

無料



藤田医科大学病院が配信している院内ラジオ「フジタイム」は、医師や看護師、教職員、藤田医科大学の大学生がボランティアとして携わっています。フジタイムでは、最新の医療情報のインタビューや朗読、ホスピタルコンサートの演奏など多彩な企画を通して患者さんへ癒しをお届けしています。ぜひ、お聴きください♪

122回 病理診断科
南口 早智子教授が
出演!

患者さんと直接会うことはないものの、検体から病気を見つけ出し、確定診断を行う重要な役割を担う「病理医」の仕事についてお話ししています。



123回 がんゲノム診療科
植野 さやか講師が
出演!

患者さんご本人だけでなく、家族や血縁者にも関わることも多い遺伝性腫瘍外来。産婦人科医として勤務していた頃、がんを追究するべく大学院に進学。遺伝性腫瘍で亡くなる方がいない未来への想いをお話しています。



124回 小児外科
井上 幹大教授が
出演!

成長過程にある子どもの体に適した治療法や治療を受ける子どもたちへの熱い想いを語っています。



125回 放射線科
井上 政則教授が
出演!

2024年6月に着任したIVR(画像下治療)が専門の井上教授。放射線医学の役割と、魅力についてお話しています。



126回 小児科
宮田 昌史教授が
出演!

NICU(新生児集中治療室)を「家族が始まる場所」と考え、治療だけでなく退院後の生活まで考えたサポートを心掛け、赤ちゃんがお父さんお母さんとふれあうことの大切さについても話しています。



Information 01

藤田医科大学病院 LINE 公式アカウント開設のお知らせ



藤田医科大学病院
FUJITA HEALTH UNIVERSITY HOSPITAL



LINE
公式アカウント
はじめました。

LINE 登録で
無料 Wi-Fi ご案内中!



友だち追加はこちらから

藤田医科大学病院からの配信



ニュースをお知らせ



季節の健康レシピ



毎月第1・3水曜日配信中!



塩分控えめでも満足感たっぷりのヘルシーレシピ

高血圧は心筋梗塞や脳梗塞の危険因子となります。食塩摂取量が増えると高血圧のリスクが高まるとして、1日の目標量は男性7.5g未満、女性6.5g未満とされています。今回は塩分2.0gで満足感のある一品のご紹介です。豆乳でコクを加え、ごま油やにんにく、豆板醬でアクセントを付けています。また、春キャベツや菜の花などの旬の食材は旨味が豊富で薄味でも美味しく食べることができます。健康的で美味しい一品をぜひお試しください。

／ 食養部が提案する ／

RECIPE 030

春野菜の担々風春雨

1人分 315cal

おおよその栄養価 (1人分)
たんぱく質13.4g
脂質14.7g
塩分2.0g
食物繊維4.5g



過去のレシピは藤田医科大学病院の
LINE公式アカウントでご覧いただけます！
友だち追加はこちら ▶



材料 (2人分)

豚ひき肉 80g
生姜(チューブ) 5g
にんにく(チューブ) ... 3g
酒 大さじ1
塩 少々 (0.3g)
キャベツ 80g
エリンギ 40g
にんじん 40g
菜の花 40g
乾燥 緑豆春雨 50g
ごま油 小さじ2弱
A 水 100g
A 合わせ味噌 7g
A 鶏がらスープの素 ... 3g
調製豆乳 200g
豆板醬 小さじ1
白すりごま 小さじ1弱

作り方

①豚ひき肉は酒、生姜、にんにく、塩で下味をつけておく。
②キャベツ、エリンギ、にんじんは千切り、菜の花は3cm幅に切る。
③緑豆春雨と菜の花をそれぞれ茹で、水を切る。
④鍋にごま油を半分入れて熱し、①を炒め、火が通ったら取り出す。
⑤同じ鍋に残りのごま油を入れ、キャベツ、エリンギ、にんじんを炒め、しんなりしたら取り出す。
⑥同じ鍋にAを入れて火にかけ、スープを作る。煮立ったら茹でた春雨、調製豆乳、豆板醬を入れる。
⑦器に⑥を入れ、上に④と⑤、菜の花を盛り付ける。
⑧最後に白すりごまをかけて完成。

ワンポイントアドバイス

☆豆板醬やラー油などでお好みの辛さに調節してください。

管理栄養士：岩本真弓加 調理師：北野哲平

中日ドラゴンズの田島コーチと清水投手が こども病棟を慰問されました

2025年1月9日(木)に中日ドラゴンズの田島慎二コーチと清水達也投手がこども病棟を慰問されました。入院中の患児からの質問にお答えいただき、お部屋から出られない患児の病室を訪問してくださいました。子どもからの「キャッチボールをしたい」といったリクエストにも応じてくださり、子どもたちからは「元気になって球場で応援したい」などの声が聞かれ、忘れられない時間を過ごしました。



海外で活躍する演奏者をお招きして ホスピタルコンサートを開催

2月6日(木)、B棟1階のホスピタルパサージュとこども病棟にてホスピタルコンサートが開催されました。演奏者は、オーストリア・ウィーンで活躍するバイオリニストの戸島翔太郎さんとピアニストの大石舞さん。華やかな音色が会場に響き渡り、訪れた患者さんたちは嬉しそうに演奏に聞き入っていました。こども病棟では、子どもたちが喜ぶ曲をセレクトしてくださり、素敵な演奏に夢中になって聴き入っていました。

